



2020年11月26日

各 位

会 社 名 株式会社ファンドクリエーショングループ  
代 表 者 名 代表取締役社長 田島 克洋  
(コード番号 3266)  
問 合 せ 先 取締役経営企画部長 阪本 浩司  
(TEL. 03-5212-5212)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、2020年1月14日付で開示いたしました2020年11月期（2019年12月1日～2020年11月30日）業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 2020年11月期 連結業績予想の修正等 通期（2019年12月1日～2020年11月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想（A）	百万円 3,110	百万円 220	百万円 200	百万円 160	円 銭 4.27
今回修正予想（B）	1,510	60	25	15	0.40
増減額（B－A）	△1,600	△160	△175	△145	
増減率（％）	△51.4%	△72.7%	△87.5%	△90.6%	
（ご参考）前期実績 （2019年11月期）	1,588	119	95	82	

#### 2. 修正理由

業績予想の修正につきましては、売上高、利益ともにインベストメントバンク事業が前回予想を下回る見込みであることが主因であり、アセットマネジメント事業に関しましては前回予想時とほぼ同水準となる見込みであります。

当社インベストメントバンク事業の不動産部門は、当社グループが組成する不動産ファンドへの販売及び自己投資による不動産のバリューアップと販売を行っております。いずれの場合においても、当社グループの投資基準に適する案件の発掘・ソーシングを行うとともに、並行して投資家の需要調査を適宜行っており、常に投資家ニーズの把握と適正価格での販売に努めております。

今般、新型コロナウイルス感染症については、その影響が拡大・長期化しており、日本経済全体への不透明感が増しております。不動産市場におきましては、現在まで大きな価格変動は見られないものの、先行き不透明感による不動産投資家の様子見姿勢の高まり、金融機関による不動産融資への厳格化や融資審査の長期化、感染症拡大による取引先である不動産仲介会社の営業自粛など、不動産の取引活動については制約を受けており、同感染症が大きく影響いたしました。

こうした環境の下、当社グループは広く国内外の不動産物件のソーシング及び販売に努めました。当期においては、米国カリフォルニア州の物件の販売を完了した一方で、ワシントン州でも販売用物件の取得しマーケティング活動を行いました。また、国内不動産につきましても、東京や神

奈川の販売用物件のバリューアップ施策やマーケティング活動を推進いたしました。

当社グループといたしましても保有物件の売却完了に向けた努力を期末まで継続いたしました  
が、上記のように新型コロナウイルス感染症による影響により、計画しておりました国内及び米国  
での物件販売が完了せず、また、同じく計画しておりました不動産仲介などの周辺ビジネスについ  
ても計画を下回ることとなりました。

以上の結果、連結売上高は前回予想比で1,600百万円下回る見込みとなりました。営業利益につ  
きましては、販売費及び一般管理費についてはほぼ計画通りに推移したものの、売上高減少に伴う  
売上総利益の減少により前回予想に対して160百万円下回る見込みとなりました。また、経常利益  
につきましては、営業利益減少に加えて支払金利等が前回予想と比較して増加したことにより前回  
予想に対して175百万円下回り、親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想に対して145百万円下  
回る見込みとなりました。

注) 上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績  
等は今後の様々な要因によって上記の予想とは異なる結果となる可能性があります。

以 上